

第1回奈良県子どもの貧困対策会議でのご意見と対応

資料2

分類		ご意見(要旨)	対応
全体	1	新たな計画を策定するにあたっては、ひとり親家庭の課題だけに重点を置くのではなく、子どもの貧困対策にかかる幅広い視点が必要。	「第3章 計画の基本的な考え方」を踏まえ、4つの施策の柱を掲げ、施策を推進
	2	子どもの貧困対策及び母子家庭等自立促進計画」というのは国が定めた名称かと思う。堅い名称の他に、ソフトなネーミングを奈良県でも考えてはどうか。	すべての子どもの現在と未来が輝くための計画としたいので、計画の通称名を『奈良っ子未来輝きプラン』としたい。
実態	3	国民生活基礎調査に基づく子どもの貧困率について、厚労省に提出したデータを用いて、奈良県の値を導くことはできないのか。	国民生活基礎調査に基づく県別のデータは公表できない(厚生労働省回答)
	4	未就学の子どもがいる家庭の「ひとり親世帯の就業率」は。	就学前の子どもがいる世帯に限定した「ひとり親世帯の就業率」は88%
施策	5	学校現場でも、生徒の様子を通じて家庭の状況を把握することに努めているが、困りごとが深刻化する前に親が頼れる支援窓口をもっと知っていただくことが必要。	「施策の柱1(1)の⑦」に記載
	6	就労支援について、ひとり親自身のスキルアップだけでなく、そのスキルを生かせる就労環境の充実が必要であるので、県内企業と連携して研究するなどの取組が必要。	「施策の柱1(2)の⑤」に記載
	7	ひとり親の雇用に関することを展開している企業と、何か仕掛けを作っていただくことはできないか。	「施策の柱1(2)の⑤」に記載
	8	奈良県では、最低賃金が低いため、パートのひとり親が長時間働かないと生活費を稼げず子どもとの時間も取れない。賃金を補完するような施策を検討してはどうか。	最低賃金の引き上げに関しては、全国知事会として国へ要望している。ひとり親支援施策として県が直接賃金補完することは難しい。
	9	ひとり親が安定的に必要な所得を得るためには、養育費の確保が重要であると考えているので、県の計画における打ち出しを期待。	「施策の柱1(3)の①」に記載